opusdei.org

属人区長の書簡 (2009年9月)

私たち自身の失敗と、毎日出会う困難とを前にして、オプス・デイ属人区長は、聖母マリアに馳せ寄ることを勧めます。9月の司牧書簡。

2009/09/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

聖母の祝日が散りばめられている月 が始まりました。聖母の子供である と知っている私たちは、いつものように喜びで満たされます。その上、私にとっては特別な思い出があります。私がオプス・デイへの所属を願い出たのは、聖マリアの誕生の祝日、9月8日だったからです。皆さんと同じように、私はいつもこの愛情の表れだったと考えてきました。

ある時、創立者は、星に導かれてべ ツレヘムを目指した博士たちの召し 出しについて触れて、次のように確 言されました。「これはまさしく私 たちの経験です。心の中に新しい光 が少しずつ輝き始めるのに気付きま した。新しい光とは全きキリスト信 者になりたいという望み、敢えて言 うならば、神を真剣に受けとめたい という切望です。もし皆さん方がそ れぞれ、超自然的召命に答えるに 至った経緯をお話しになれば、人々 は、確かにそれは神からのもので あったと判断することでしょう。父

なる神、子なる神、そして天から である神、子なる神、それである神、それである神、子なる神、者である神の者であるを のではないではないではないです。 では、これではないではないです。 では、これではないではないではないです。 では、これではないではないです。 では、これではないです。 は、これでではないです。 は、これでではないです。 は、これでであるとでははであるといった。 は、これではないです。 は、これでであるといいとないです。 した熱意のです。 した対した対した対した対したがです。 した対したがいていないです。 して、これでであるとにはいいとないです。 した対した対した対した対したがです。 して、これでであるといいとないです。 して、これでであるといいとないです。 した対した対した対した対した対したがです。 したが、これではないです。 して、これでであるといいないないです。 して、これでであるといいとないです。 した対して、これであるといいないないです。 して、これであるといいとないです。 したが、これであるといいとないです。 した対していないないです。 したが、これではいいないです。 したが、これではいいないです。 したが、これではいいないないです。 したが、これではいいないです。 したが、これではいいないです。 したが、これではいいないないです。 したが、これではいいないないないです。 したが、これではいいないないです。 したが、これではいいないないです。 したが、これではいいないないです。 したが、これではいいないないです。

は、花々を飛び回わって蜂蜜の原料 を集めるミツバチのように、神の御 助けを受けて、小さな子供として、 皆に必要な霊的糧を頂くようにしま しょう。御母ご自身が、典礼の中で は彼女の言葉とされている、聖書の 霊感を受けた言葉をもって、私たち を励ましてくださいます。「私は美 しい愛と畏れとの母、また知識と清 らかな希望の母であって、神から召 された者、全ての私の子供たちに、 世々に自分自身を与え続ける。私を 慕う人たちよ、私のもとに来て、私 の実を心ゆくまで食べよ。私を心に 覚えること、それは密より甘く、私 を遺産として受け継ぐこと、それは 蜂の巣から滴(したた)る密よりも 甘い。| [iii]

この偉大な宝物を前にして、自問してみましょう。一日中、大小様々な必要なことにおいて、母なるマリアに度々馳せよっているでしょうか。 創立者が絶えず口にしておられた 「お母さん、私のお母さん」という情愛に溢れた呼びかけが、私たちの心と唇にのぼっているでしょうか。母親の助けを必要とする子供のように、大急ぎで聖母の許に行き、全てを委ねているでしょうか。

9月最初のマリアの祝日は8日の誕生 の祝日です。マリアの誕生によっ て、この地上に救いの日が訪れたこ とを何度も考察したことでしょう。 聖母から「ortus est sol justitiae. Christus Deus noster 私たちの神で あり救い主である正義の太陽・キリ ストが生まれた | [iv] からです。預 言者たちはこの記念すべき日のこと について語り、教会はミサの第一朗 読に、メシアが生まれることになっ ていた町、ベツレヘムについて語る ミカの書を選び、そのことを強調し ています。ベネディクト十六世はこ う解説しています。「伝説は、彼は ダビデ王の子孫として、彼のように ベツレヘムで生まれるはずだと言い

ます。しかし、その方は限界ある人 間性を超越するでしょう。『その出 自は昔の日々に遡り』、永遠と思え るほど遠い昔のことだからです。そ の威力は『地の果てまで』届くで しょう。同じように平和もそうで しょう(ミカ5.1-4参照)。| [v] そ して教皇はこう結論づけます。「民 の解放の始まりを示す者である『主 から聖別された者』の到来を説明す るため、預言者は『生むべき者が生 むときまで(ミカ5.2)』という不可 解な言い方をしています。このよう に、信仰の非常にすぐれた学舎であ る典礼は、マリアの誕生が、ダビデ の子であるメシアと直接関わりのあ ることを認めるよう教えているので す。| [vi]

ミカの書の神秘的な言葉は、福音書 がマリアに当てはめているイザヤの 預言「ecce, virgo concipiet et pariet filium et vocabit nomen eius Emmanuel [vii] 見よ、おとめが身ご もって男の子を産む、その名はインマヌエルと呼ばれる」を暗示しているように思えます。これらの言葉は、神のみことばが聖霊によって聖母の汚れなきご胎内で人となられたお告げの時に、成就しました。

福音書は、主の御宿りの告知を締め くくるため、聖マタイによるイエス の長い系図を示します。「アブラハ ムから始まるイスラエルの歴史を、 最終的にキリストに到達する、長く 険しい道を登り降りする巡礼として 示しています。」[viii] 旧約聖書の人 物一覧表には、神に忠実であった男 女ばかりではなく、そうでなかった 人たちも含まれています。神の望み に忠実に応えたアブラハム、イサ ク、ヤコボといった偉大な太祖たち もいれば、大罪人のように振る舞っ た指導者や王や一般人も出てきま す。中には痛悔した人もいました が、そうでない人たちもいました。 女性たちにも同じことが見られま

す。神に愛されたルツと共に、主に 逆らった人たちのことも取り上げら れています。ベネディクト十六世は こう強調されます。「輝かしい人物 や疑わしい人物、彼らの成功や失敗 に彩られた系図は、神が私たちの歴 史の曲折を用いて正しく導かれるこ とを示しています。神は私たちの自 由にお任せになります。そして、私 たちの失敗の中に、その愛のための 新たな道を見出されるのです。神が 失敗なさることはありません。この ように、この系図は神の忠実を保証 するものですし、神は私たちを過ち の中に置き去りになさることなく、 私たちがいつも主に向けて生活を立 て直し、キリストを目指して新たな 歩みを始めるよう招いておられるこ とを保証するものでもあるので す。」[ix]

これは、聖ホセマリアがこの場面から読みとるようにと勧めていた教えです。次のことを私たちに気付かせ

てくれます。確かに「福音記者たち は、イエス・キリストについて知っ たことを全て記すことはできません でした。主のみことばやなさったこ とを残らず書き記そうと思えば、膨 大な冊数が必要になったでしょう。 ところが、彼らが選んだ出来事の中 には使徒たち自身にとって不都合な ことも含まれていました。しかし、 その全てに教えが含まれているので す。| [x] そして具体的に言われま した。「改めてイエス・キリストの 系図を見てみましょう。ヨセフとマ リアの先祖には、ときどき模範的で はなかった男性や女性が見られま す。これは確かに、神の御母が、ご 自身は汚れの全くない一無原罪!一 お方であられながら、汚れもろとも 私たちを受け入れてくださること を、よく考えるようお望みであると 教えているのです。そして、私たち が清い心で善意にあふれて聖母とイ エスに近づくなら、過去のことは全 て帳消しにして下さいます。生活を

やり直すことができるのです。そのため、一日中、何度も、進路を正さなければなりません。」[xi]

これらの考えは、この司祭年に、聴 罪司祭も含めて、ゆるしの秘跡の必 要性を広める幅広い使徒職を盛んに し、この罪のゆるしの手段を教会に 与えて下さった主に感謝するよう、 私たちを招いています。この考察は さらに、私たちを楽観的にし、落ち 着かせてくれます。神は、私たちの 弱さを望むのではないけれども、弱 さに飽き飽きなさることはないとい うことに気付かせてくれるからで す。私たちの罪や欠点も、これらの 欠陥を痛悔し、必要ならゆるしの秘 跡に与ってゆるしを乞うなら、私た ちを神から引き離すことにはなりま せん。主は絶えずその御憐れみに よって、私たちを主の愛に引き寄せ ようとお望みなのです。

聖ホセマリアの言葉で繰り返します。「私は、あなた方と私が、うな戦い方の視点を持つようないます。また、内的生活にというないます。落胆せずないます。をして、神に仕えく可度ものというではなく何度なければならないはならに、と願っています。」
[xii]

誕生の祝日の四日後、9月12日はマリアの甘美なみ名の祝日です。御日でするの祝日でするのおいてきているというできている。びらればないのないできには、全部でいいません。会には、全部ではないでは、できないが、だればないのではない。 は、全部では、は、全部では、というになるとがあるからです。

このような試みの時には、失望感に 襲われ、戦い続ける熱意が弱まるこ ともあります。そんな時には、より 大きな関心をもって、忍耐強く Stella maris海の星であるおとめマリ アを眺めなければなりません。再 度、聖ベルナルドの世界的に知られ ている一節をひもとき、耳を傾けて みましょう。「誘惑の嵐があなたの 周りに吹きすさぶとき、試練の波が あなたの霊魂の小舟を海底に沈めよ うとするとき、ああ、人よ、この星 を仰ぎなさい。『マリア!』と一言 呼ばわりなさい。 (…) 聖母の後ろ からついて行きさえすれば、道に迷 うことはありません。聖母に祈りさ えすれば、失望することはありませ ん。聖母に目を注いでさえいれば、 わき道にそれることはありません。 聖母に支えてさえいただけば、なん の恐れるところもありません。聖母 にお手づから導いてさえいただけ ば、疲れることはありません。聖母 が慈悲のまなざしを注いでさえくだ

されば、あなたの霊魂は確実に、救いの港に安着することができるのです。このように、すでにあなたの人生体験がそれを実証していますように、『おとめの名をマリアと言いました(ルカ1,27)』という一句は、どれほど真実、どれほど重厚な内容を持つ言葉なのでしょう。」[xiii]

時には日々の戦いの小競り合いで敗 北することがあったとしても、聖母 の強力な御助けでいつも勝利者にな ることができます。マリアが私たち から目を離されることなど決してあ りません。私たちの口からその名前 が漏れるのを耳にすればすぐに駆け つけ、私たちを守って下さいます。 「お母さま、と聖母を強く激しくお 呼びせよ。聖母マリアは、あなたの 声を聞き、おそらく、危険の内にあ るあなたを見て、御子の恩寵を与 え、ご自分の膝に乗せて慰め、優し く愛撫してくださるだろう。そこで

再びあなたは、戦いに必要な勇気を 感じるだろう。」[xiv]

9月15日には、十字架の下の聖母 が、隠れた静かな犠牲の価値につい て話してくださいます。私たちは、 苦痛と苦悩の時に示された彼女の強 さに感嘆し、黙想しましょう。「イ エスは、愛の心でひっそりと傍らに 佇むマリアを視、慰めを感じる。マ リアは大声を上げたり、気ぜわしく 動き回ったりしない。御子のそばに 『立っておられる』。」[xv] 娘た ち、息子たちよ、このように、十字 架、つまり十字架上のキリストと共 に留まる強さこそが、あふれるばか りの紹自然的実りの条件であり、ま たそれを保証するものであることを 学べるのではないでしょうか。肉体 的精神的な苦しみにおいて、また、 反抗心が心に道を開こうとするとき には、聖母の振る舞い方を思い起こ し、あらためるべきなのです。その ような時には、創立者がしばしば表

明し、神から委ねられた使命を果たしていく助けとなった考えを、あなた方も更新するよう勧めます。「主よ、〈これ〉をお望みですか。それなら、私も、喜んで〈これ〉を望みます。」[xvi]

さらに、この日には、どうして愛するドン・アルバロのことを思立るとしておられるされた。創立たおの後継者として指名された原語では、いっちにいるでは、なったり困難に出るし出しておきをいるに、その周りにかもし出しておきないです。 さらに、どうしてはの思いでします。 でしておられるされた原態によったり困難にかもし出しておきるように、 に、その周りにかもしまれたがいたです。 さらに、お願いにきれたがあるためです。

最後に、9月24日、メルセスの聖母の祝日を祝います。この聖母の呼び名は、オプス・デイの歴史の決定的な時期に聖ホセマリアの役に立ちました。人々に良く仕えるために必要

その祈りの中で、特別に9月6日、トレシウダで叙階の秘跡を授けるアソシエイトの兄弟のことを思い起こしてください。また、毎月思い起こしてもらっているように、日々の祈りの中で、教皇と、教会の統治において協力する全ての方々のために熱心に祈ってください。毎日プレチェスの中でDominus conservet eum, et vivificet eum, et beatum faciat eum

in terra 主よ、その人を守って命を得させ、この地で幸せにして下さい [xvii]、と天に願っていることを、心を込めて唱えましょう。特に、教皇様が今月の26日から28日まで行かれる予定のチェコへの旅行に付き添うことにしましょう。

プエル・トリコの摂理の聖母のご像の前で、またメキシコのグァダルーペの聖母の前で、皆と一緒に祈りました。また、聖ホセマリアが何度を持て、カルワリオの犠牲に感謝したケルンの大聖堂の三もした。全能の嘆願者である母なる聖マとができました。

娘たち、息子たちよ、私たちが使徒職を展開している国々では、あふれるほどの喜ばしい使徒職の仕事が待っています。それゆえ、去る8月15日、聖母の甘美なるみ心へのオプ

ス・デイの奉献を更新した際、私は 聖母に、全人類の救霊のための熱意 で毎日を使い尽くすように、1951年 のロレトでの聖ホセマリアの祈りを 自分のものにしたいと皆が望んでい る、と申し上げました。

心からの愛を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

パンプローナ、2009年9月1日

[i] 聖ホセマリア、『知識の香』32

[ii] 聖ベルナルド、聖母の誕生の祝日の説教(『聖母の歌手』221ページ、第三章「恩寵の水道」)

[iii] シラ書 24, 18-20 (新共同訳)

[iv] ローマ・ミサ典書、聖マリアの誕 生の祝日の入祭唱 [v] ベネディクト十六世、2008年9月 7日ボナリアの聖母巡礼地での説教

[vi] 同上

[vii] イザヤ7, 1-4;マタイ1,23.

[viii] ベネディクト十六世、2007年9 月8日聖母の誕生の祝日の説教

[ix] 同上

[x] 聖ホセマリア、1966年9月8日説 教のメモ

[xi] 同上

[xii] 同上

[xiii] 聖ベルナルド、神のお告げについての説教2,17.(『聖母の歌手』87-88ページ、第一章「受胎告知」♠)

[xiv] 聖ホセマリア、『道』516

[xv] 聖ホセマリア、『神の朋友』288

[xvi] 聖ホセマリア、『道』762

[xvii] 詩編41,3参照

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2009nian-9yue/ (2025/12/10)